

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 杵築 高等学校	
学校教育目標	「尚学・剛健・真摯・向上」の校訓のもと、自らを鍛え、他者と協働しながら自己の主体的な生き方を決定できる、心身の調和のとれた生徒の育成に努める。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・地域の進学拠点校という使命を踏まえて的確な学校経営ビジョンを策定し、学校経営の「芯」が明確になった。 ・スクール・ミッションにある「志四海」という言葉を再解釈・再定義して、目指す生徒像の明確化が図られている。 ・学校経営ビジョンが全教職員に共有されており、その上で様々な教育活動が推進されている。 ・業務のスクラップ&ビルドが計画されており、経営資源の重点化が実現されつつある。	・スクール・ミッションにある「志四海」という言葉については「自分が目指すところへ一歩踏み出すこと、再挑戦すること」と捉え直し、目指す生徒像のあり方を丁寧に説明する。 ・年度末における分掌反省や校内の内規の改訂を通して、業務の精選を継続して行っていく。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・重点目標「自ら学びに向かう態度の育成」は、取組と計画が検討されPDCAサイクルによる実現が期待できる。 ・重点目標「人格の陶冶と体力・技能の向上」は、その意味と具体的取組を明確にする必要がある。 ・「志四海」と重点目標の一つである「自ら学びに向かう態度の育成」については関連性が見えてきている。 ※「志四海」:卒業生の元外務大臣重光葵氏よりいただいた言葉、「志を全世界に広げる」 ・「志四海」を他の重点目標や重点的取組等にも関連付けることが期待できる。 ・校内分掌について、機能していない部分を教職員アンケート等を通して把握し、改善に繋げている。 ・「学力の定着」と「学業と部活のバランス」を学校の重要課題として捉え、丁寧に分析・検討を行っている。 ・生徒アンケートの評価が非常に高いが、より生徒の実態を捉えるため、踏み込んだ項目を検討してもらいたい。	・生徒および保護者に対する「学校満足度アンケート」、生徒への「授業アンケート」を実施し、教科主任会議や学年会議の中で現状分析を行いながら、改善策を提案するとともに周知を図り、実践していく。 ・学年会議や教育相談委員会を通じて、生徒の状況に係る情報共有を常に行い、保護者との連携も強化しながら引き続き生徒の学習活動を支援していく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・良い。 ・探究学習において地域のキーパーソンを招く等、地域との連携・接続に取り組む姿勢を更に深めてほしい。 ・地域から「協力していただく系」の連携に加えて、学校が「地域に貢献する提供系」の連携も考えられる。 ・地域に貢献する「提供の在り方」について検討し、「WIN-WIN」の関係を構築してもらいたい。	・「杵築高校『総合的な探究の時間』運営指導委員会」を組織し、専門的な外部人材を指導者として招へいし、特に2年次における総合的な探究の時間を深化させ、実践的な学びを強化していく。 ・学校ホームページの更新や中学校教員を対象とした会議の開催、「杵高だより」の配布、さらに今年度は校長公式SNSを開設し、情報発信した。次年度は、DXを活用した市役所との連携や地元活動への参加・支援等の地域連携行事、生徒会活動の活性化にも力を入れていく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・授業の活性化が図られ、生徒の学習姿勢も前向きであり、生徒による授業評価の結果も良好である。 ・生徒ヒアリングから、個々の学習ニーズや学習状況に応じた授業が行われていることが伺えた。 ・グループ学習等を通して、生徒同士がお互いに確認し合える場面の充実が図られていることが伺えた。 ・生徒にとって総合的な探究の時間が、教育活動の中で大きなウェイトを占めていることが伺えた。 ・今後、総合的な探究の時間の充実を通して、授業の活性化と特色化を図ることも検討してもらいたい。 ・授業に対して生徒は熱心である。教員は前向きに授業改善に取り組んでおり、丁寧な授業が行われている。 ・物足りない点もあり、「知的関心を高める授業」「前向きな不満(生徒が疑問をもつ)」が出る授業を期待したい。	・「杵高尚学プラン」を全教職員に提示し各学年および各分掌で取り組む具体的な内容について教職員間の目線合わせを行い、生徒へは「私の学びチェックシート」により自己評価をさせながら、主体的な学びへの支援を行う。 ・質の高い授業を目指し、本校が掲げる授業改善テーマを全教員で共有・実践し、校内授業研究会を通してさらに指導力の向上を図る。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・ケース会議が定期的開催され、情報共有や支援の方向性の検討が行われている。 ・教育相談に係る業務内規の改訂等、常に刷新して取り組んでいる。 ・学校の雰囲気から温かい校風を感じた。のびのびと教育活動に取り組める環境である。	・今年度はケース会議を充実させた。来年度は初動を速くし、クラス担任の困りを軽減するために、担当分掌だけでなく、教頭、3人の学年主任が参加した情報共有の場を時間割に設け定期的実施する。 ・不登校生徒に対する遠隔授業に係る内規を作成したが、来年度、本格実施するにあたって、もう一度、目的を全教職員で確認し目線合わせをする。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・窓からの落下防止措置を講じる(窓に転落注意の張り紙を貼る)等、安全を確保する取組が行われている。 ・不審者対応研修や防災委員会活動の充実等、学校の実態に即した取組が行われている。	・校舎の老朽化により、日々、危険箇所が増えていく。安全点検を教員だけでなく、PTA常任委員会の折などを利用して第三者に確認してもらう機会を設ける。 ・今年度は年度途中に実施した研修もあったため、危機管理に係る職員研修(エビベン、救急救命、不審者対応等)は1学期始業式前に実施する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・業務のビルドだけでなくスクラップも行われ、教職員のライフワークバランスの向上に繋がることが期待される。	・教職員のワーク・ライフ・バランスの実現が、これまで以上に質の高い教育活動の提供に資するよう、組織の改変、部活動活動方針に沿った適正な部活動、職員の意識改革など引き続き改革を推進する。 ・ICT活用はある程度進んでいるが、学習支援アプリなどをさらに利活用し、効率化を図っていく。 ・上記内容が教職員だけでなく、生徒・保護者にも共有されるよう、管理職が中心となって情報発信を行っていく。
	学校課題の解決に向けた取組等	○多様なニーズや生徒に対応しつつ、地域の進学拠点校(インフラ)として役割を果たし続ける取組が行われているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・杵築高校は地域にとって、地域の進学拠点校(インフラ)以上の存在であることが実感できる。 ・「志四海」を学校として捉え直したことに伴い、スクール・ミッションやポリシーの捉え直しも検討してもらいたい。	・スクール・ミッションやポリシーとの齟齬がでないような学校評価実施計画を立てる。 ・今まで地域の中学生やその保護者に学校の特色などをアピールしてきたが、来年度は、進路指導を行う中学校のクラス担任に向けてもアピールできるよう、市教委と連携していく。
総合評価	<p>・「志四海」が学校づくりの中心的なキーワードであることを再認識した。「志四海」を生徒が意識するためには、日々の学校生活の中で具体的に達成した姿を伝えていくことが重要であると思われる。</p> <p>・地域の進学拠点校であるという使命が、学校を方向付ける基盤となっている。また、学校が杵築市のブランドを体現する役割(杵築ブランドの体現者としての役割)を担っているのではないかと考えられる。</p> <p>・学校にとって重要なキーワードである「志四海」について、再定義・再解釈した姿が教職員にも生徒にも伝わること(その過程で解釈も更に深まっていと思われる)を期待したい。</p> <p>・学校改善の1丁目1番地と位置付けている授業改善に向けて、授業観の問い直しも含みながら、教育活動が更に発展していくことを期待したい。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・今回の第三者評価を踏まえ、本校の教育活動の方向性を改めて見直し、さらなる発展を目指していく。</p> <p>・教職員だけでなく、生徒・保護者・地域住民と共有しやすく且つスクール・ミッションやグラデュエーション・ポリシーと明確に繋がった学校教育目標を設定し直す。</p> <p>・学力向上に関しては、これまでの取組を継続・発展させるとともに、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を重視する。特に、自ら学ぶ力を育むための指導方法の工夫や、効果的な家庭学習の支援策を強化していく。また、進路指導においては、個々の適性や希望に寄り添った支援を充実させ、多様な進路選択に対応できる体制を整える。</p> <p>・学校の魅力発信については、地域や保護者との連携を深め、本校の教育活動や成果を積極的に発信する。特に、地域との協働を通じた教育活動を強化し、学校と地域がともに発展できる関係を築いていく。また、中学生やその保護者に対してだけでなく、地域の中学校のクラス担任に対しても魅力ある学校づくりの取組を具体的に伝え、入学志願者の安定的な確保にも繋げる。</p> <p>・部活動と学習の両立についても、バランスの取れた環境を整備し、生徒がより充実した高校生活を送れるよう配慮していく。土曜日の学習時間の確保や、部活動の適正な運営(年間部活動時間のシーリングを設定する予定である)についても引き続き検討を重ねる。</p> <p>・働き方改革について全教職員の目線合わせや意識改革を引き続き実施していくとともに、若手教員の人材育成を深化させ、スキルアップすることによる勤務時間の縮減を図りたい。</p>			